

# あおり



## CONTENTS | 目次

特集 ▶ P2-5

### 人幸増加大作戦

～平成30年度 未来へ架けるチャレンジ～

旬を食べよう。あおり食材で簡単ヘルシークッキング/  
青森さらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶P6

青森の未来に全力! 県職員最前線レポート  
『世界へ発信! 十和田湖・奥入瀬渓流の魅力』/  
山火事に注意しましょう! ～小さな火 大きな森を 破壊する～/  
平成30年10月1日から青森県の乳幼児はつつ育成事業を拡充します ▶P7

申吾のほっとコラム/あおりインフォメーション ▶P8



### 津軽のわら細工の 編み方を応用した 「津軽組ひも」

色とりどりの絹糸を組み上げて作る「組ひも」。伸縮性に富み、結び目がほどこけにくい実用性と装飾性を兼ね備えているのが特徴です。そのため、奈良時代には仏具や経典の飾りなどに使われ、その後、歴史の移り変わりとともに、武具、甲冑、茶道具、着物の帯締めなど、さまざまに用途を変えながら日本人の暮らしに寄り添ってきました。

「津軽組ひも」は、五所川原市の川口良子さんが、幼い頃、祖父が編んでいたわら細工の編み方を応用して制作を始めた。絹糸にりんご染めや藍染を施して組んだ帯締めは、青森の風土を感じさせてくれる優しい色合いで、首都圏でも人気を呼んでいます。

平成17年、「全国職人の集いin弘前」に出展した際、放送タレントの故・永六輔さんから背中を押してもらったことがきっかけで、川口さんはさらに研鑽を重ね、平成21年には県の伝統工芸品に指定されました。

結び方によって、ブローチやキーホルダーなど、カジュアルな小物にアレンジできる多様性も魅力。平成29年には、「津軽組ひも」がJR東日本の豪華クルーズトレイン「TRAIN SUITE 四季島」の制服の紋章に採用され、話題を呼びました。毎年6月には、五所川原市の「金木公民館」で展示即売会を開催しており、「津軽組ひも」の多彩な魅力に触れることができます。

▼関連記事はP6で